

Kansai Economic Insight Monthly

2019/6/25

Vol.74 May/June

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR数量分析センター長)、馬騰・KARAVASILEV Yani (各APIR研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)、Cao Thi Khanh Nguyet(関西学院大学講師)、野村亮輔です。

▼本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下・先行きともに悪化* -

- ✓ 4月の生産は6カ月ぶりの前月比プラス。結果、4月実績は1-3月平均比-0.5%下落した。近経局は生産の基調判断を「足踏みをしている」と前月から引き続き据え置いた。
- ✓ 5月の貿易収支は4カ月ぶりの赤字。輸出、輸入ともに減少しており、貿易額は6カ月連続で縮小。米中貿易摩擦の影響を受け、対中貿易額は7カ月連続で減少している。
- ✓ 5月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりに前月から悪化し、6カ月連続で50を下回った。月初は大型連休の好影響が見られたが、その後は節約志向が強まった。
- ✓ 3月の関西2府4県の現金給与総額は3カ月ぶりの前年比マイナス。実質現金給与総額も3カ月ぶりに同マイナスとなった。
- ✓ 4月の大型小売店販売額は2カ月ぶりの前年比マイナス。百貨店はインバウンド需要の影響でプラスに寄与したが、スーパーは、気温の影響もあり、季節品の不調によりマイナスに寄与した。
- ✓ 4月の新設住宅着工戸数は主に貸家の大幅減少が影響し、2カ月ぶりに前年同月比減少した。分譲も減少したものの、持家は引き続き増加した。
- ✓ 4月の有効求人倍率は前月比小幅のプラスだが、求人数、求職者数ともに4カ月連続の減少。一方、完全失業率は前月比横ばいだが、労働力人口、就業者数いずれも減少している。雇用情勢には一服感がみられる。
- ✓ 4月の建設工事出来高は14カ月連続で前年比増加した。5月の公共工事請負金額は2カ月連続の増加となった。補正予算の効果が出ている。
- ✓ 5月の関空の外国人入国者数は8カ月連続で前年比増加だが、一桁台の伸びが続いている。国籍別にみると、3月の中国からの入国者は6カ月連続で前年比増加だが、台湾からは2カ月連続、韓国・香港からは10カ月連続でいずれも同減少している。
- ✓ 中国の5月の製造業購買担当者景況指数は2カ月連続で前月から悪化し、3カ月ぶりに景気分岐点を下回った。また、対米貿易収支は4カ月連続で拡大したが、貿易総額は6カ月連続で減少していることに注意。

【関西経済のトレンド】

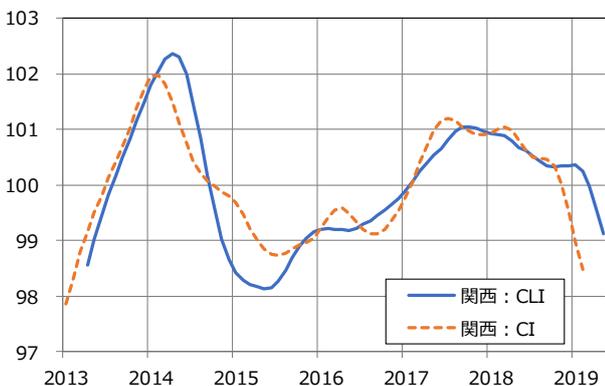
	2018年								2019年				
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
生産	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗	
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗
センチメント	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↘
消費	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	
住宅	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↗	
公共工事	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↗
中国	↗	↘	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘

(*トレンドの判断基準)

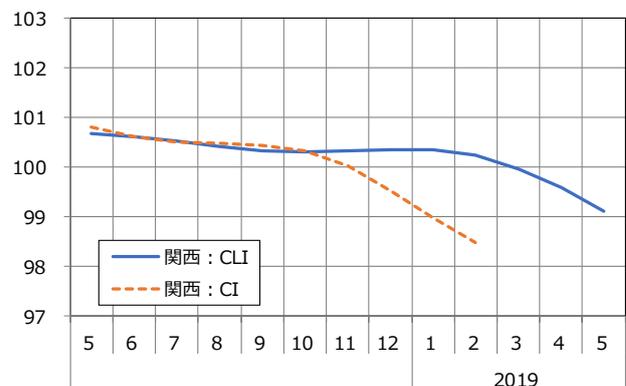
- **生産**：近畿経済産業局『近畿地域域工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2013年1月~2019年5月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2018年5月~2019年5月)



【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

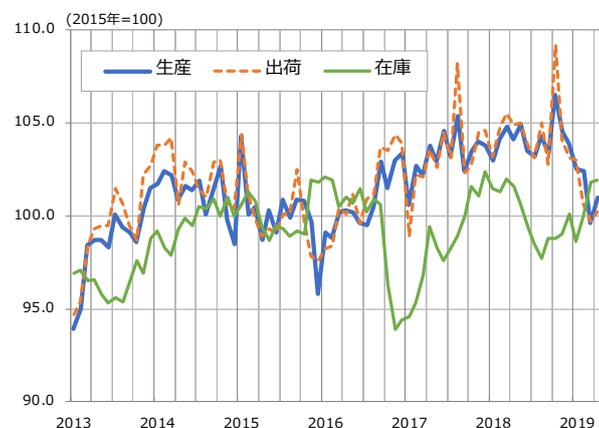
関西 4 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 101.0 で前月比+1.4%、出荷は 100.2 で同+0.5%とそれぞれ 6 カ月ぶりに上昇し、在庫は 101.9 で、同+0.1%と 3 カ月連続で上昇した。なお、4 月分の公表時点で 2018 年 1 月以降分について年間補正が行われた。近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は足踏みをしている」と前月から引き続き据え置いた。

結果、4 月実績(生産)は 1-3 月平均比-0.5%下落した(1-3 月期は前期比-3.3%)。4-6 月期の最初の月としては、弱い結果となった。

4 月の生産指数を業種別にみると、電気・情報通信機械工業(同+8.1%、2 カ月ぶり)、電子部品・デバイス工業(同+15.8%、2 カ月ぶり)、輸送機械工業(同+5.1%、3 カ月ぶり)等が増産となった。一方、生産用機械工業(前月比-10.4%、3 カ月ぶり)、鉄鋼・非鉄金属工業(同-2.3%、3 カ月ぶり)、食料品・たばこ工業(同-1.6%、3 カ月連続)等が減産となった。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、4 月(確報値)は 105.4 で、前月比-3.8%と 2 カ月連続のマイナス。5 月(速報値)は 103.5 で、同-1.8%と下落した。

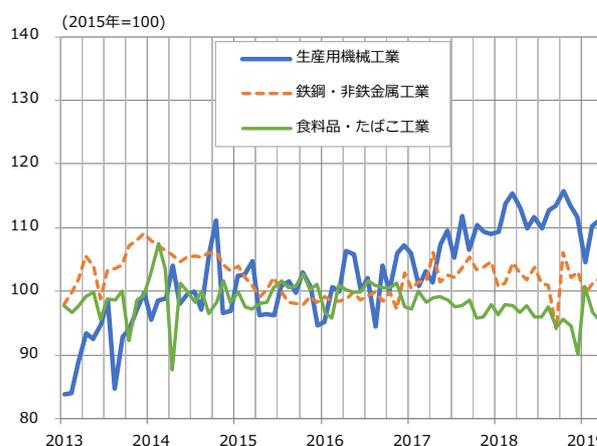
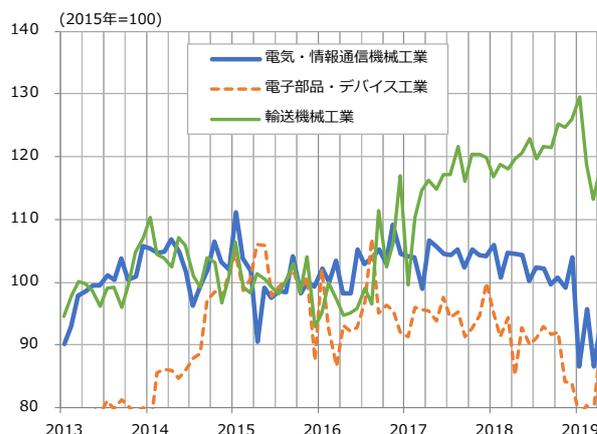
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~2019 年 4 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~2019 年 4 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

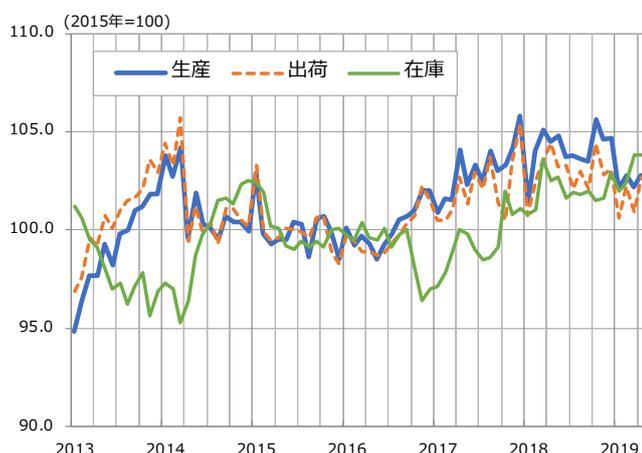
全国 4 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 102.8 で前月比+0.6%、出荷は 102.7 で同+1.8%といずれも 2 カ月ぶりに上昇。在庫は 103.8 で前月比横ばいとなった。

4 月の生産指数を業種別にみると、自動車工業(前月比+3.1%)、生産用機械工業(同+5.2%)、食料品・たばこ工業(同+1.6%)等が増産となった。一方、汎用・業務用機械工業(同-6.9%)、電子部品・デバイス工業(同-7.6%)、化学工業(除、無機・有機化学工業)(同-3.4%)等が減産となった。

結果、4 月実績(生産)は 1-3 月平均比+0.4%上昇した(1-3 月期は前期比-2.5%)。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、5月は前月比+5.6%と増産が、6月は同-4.2%と減産が予測されている。予測が実現すれば4-6月期の生産は1-3月期比+2.7%となり、増産が見込まれる。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月～2019年4月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

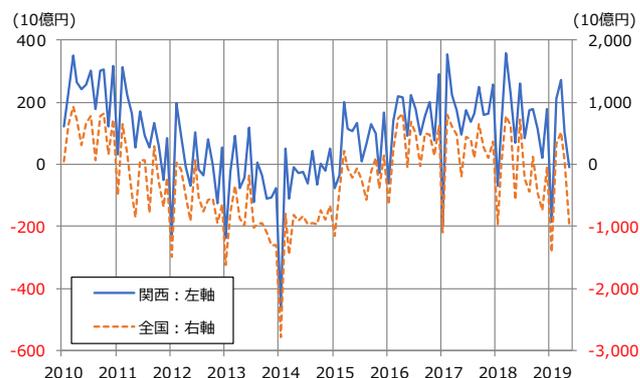
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西5月の貿易収支は-87億円と4カ月ぶりの赤字となった。輸出額が減少し、前年同月比-10.4%(前月同-5.7%)で7カ月連続のマイナス。一方、輸入総額も減少しており、同-5.2%(前月同+3.6%)で2カ月ぶりのマイナス。輸出、輸入ともに減少した結果、赤字幅は小幅にとどまっているが、問題は貿易額(輸出入の合計)が6カ月連続で縮小していることである。

また、全国5月の貿易収支(速報値)は-9,671億円となり、関西と同様に4カ月ぶりの赤字となった。米中貿易摩擦により、対中輸出が減速しており、先行きの動向に引き続き注視すべきである。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2019年5月)



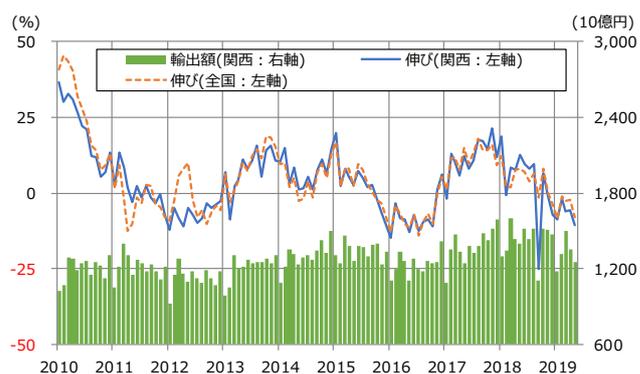
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西5月の輸出額(速報値)は1兆2,509億円で、前年同月比-10.4%と7カ月連続の減少。財別にみれば、主に中国向けの液晶パネル部材といった科学光学機器、中国と韓国向けの半導体等製造装置が減少した。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、5月(速報値)は103.5となり、前月比-1.8%と3カ月連続のマイナス。4-5月平均は1-3月平均比-4.1%と低調である。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2019年5月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

全国5月の輸出額(速報値)は5兆8,351億円で、前年同月比-7.8%と6カ月連続の減少。財別に見れば、半導体等製造装置、自動車の部分品等及び鉄鋼が減少した。

(3) 輸入

関西5月の輸入額(速報値)は1兆2,596億円で、前年同月比-5.2%と2カ月ぶりのマイナスとなった。財別に見れば、原油及び粗油、衣類及び同附属品が減少した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、5月(速報値)は105.7となり前月比+4.0%と6カ月ぶりのプラス。結果、4-5月平均は1-3月平均比-1.2%減少にとどまった(1-3月期、前期比-2.3%)。

全国5月の輸入額(速報値)は6兆8,022億円で、前年同月比-1.5%と3カ月ぶりの減少となった。財別に見れば、液化天然ガス、有機化合物及び石炭等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2019年5月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西5月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+1,143億円で4カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年同月比-46.8%と3カ月連続で縮小した。輸出(7,973億円)は7カ月連続のマイナス(同-14.7%)。財別に見れば、半導体等製造装置、科学光学機器等が減少した。輸入(6,830億円)は3カ月ぶりのマイナス(同-5.1%)。主に衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等が減少した。

うち、対中貿易収支は-644億円で11カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比拡大した(同+37.7%)。輸出(3,153億円)は9カ月連続のマイナス(同-13.0%)。財別に見ると、科学光学機器、半導体等製造装置等が減少した。輸入(3,797

億円)は2カ月連続のマイナス(同-7.2%)。財別に見ると、衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具等が減少した。

対米貿易収支は+747億円の黒字となり、黒字幅は前年同月比+1.7%小幅増加した(2カ月連続のプラス)。輸出(1,952億円)は4カ月連続のプラス(同+1.0%)。財別に見れば、建設用・鉱山用機械、鉱物性燃料等が増加した。輸入(1,205億円)は2カ月ぶりのプラス(同+0.6%)。財別に見れば、医薬品、原油及び粗油等が増加した。

対EU貿易収支は-186億円で4カ月ぶりの赤字だが、赤字幅は前年同月比-22.2%縮小した。輸出(1,454億円)は3カ月連続のプラス(同+1.5%)。財別に見れば、原料品、無機化合物等が急増した。輸入(1,641億円)は2カ月ぶりのマイナス(同-1.9%)。財別に見れば、たばこ、有機化合物等が減少した。2月に発効した日・EU経済連携協定(EPA)の影響が薄まってきた。

【消費者センチメント】

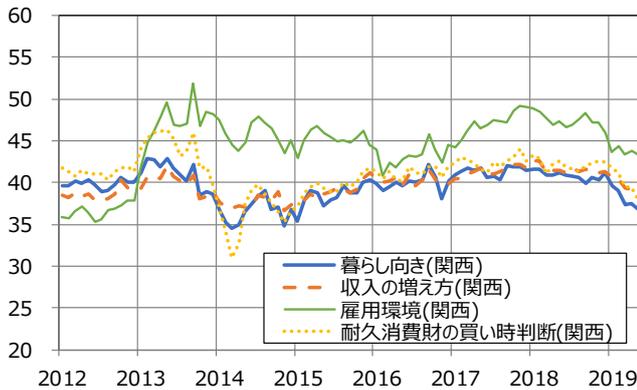
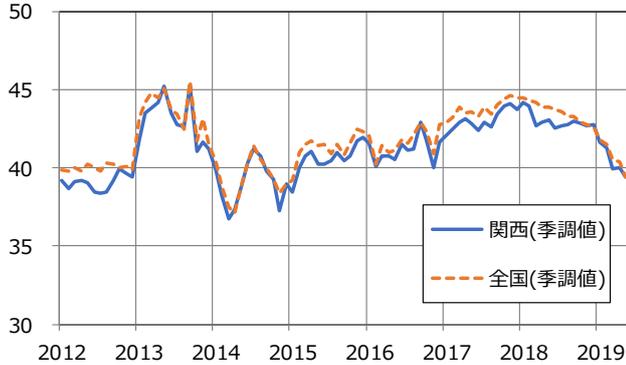
(1) 消費者態度指数の動向

関西5月の消費者態度指数(季節調整値・APIR推計)は39.4と前月比-0.6ポイント低下し、2カ月ぶりに悪化した。4月は一旦40に回復したものの、再び40を割り込んで2015年1月(38.5)以来の低水準である。同指数の構成項目の内訳を見ると、耐久消費財の買い時判断指数(37.9)は前月比-1.5ポイント低下し、6カ月連続の悪化。暮らし向き指数(36.8)は同-0.6ポイント、雇用環境指数(43.4)は同-0.4ポイントと低下し、いずれも2カ月ぶりの悪化。収入の増え方指数(39.4)は同+0.3ポイント小幅上昇し、5カ月ぶりの改善であった。

全国(季節調整値)は39.4と前月比-1.0ポイント低下し、8カ月連続の悪化。2015年1月以来の低水準である。同指数を構成する4項目のうち全てが前月から悪化した。食料品の値上げや米中貿易摩擦の影響がみられる。構成項目の内訳を見ると、耐久消費財の買い時判断指数(37.2)は同-1.6ポイント低下し、5カ月連続の悪化。雇用環境指数(43.3)は同-1.1ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。収入の増え方指数(39.8)

は同-0.7ポイント低下し、6カ月連続の悪化。暮らし向き指数(37.4)は同-0.6ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となった。内閣府は基調判断を「弱まっている」と3カ月連続で据え置いた。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2019年5月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

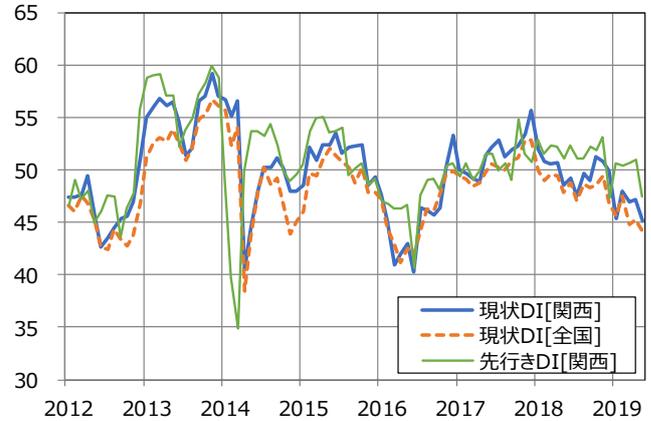
関西5月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は45.1と前月比-2.1ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化となり、6カ月連続で50を下回った。月初は大型連休の影響が旅行・レジャー関連を中心に堅調にみられたが、その後は節約志向が強まった。

全国の前月比は44.1と同-1.2ポイント低下し、2カ月ぶりに悪化した。

先行き判断DI(季節調整値)は、関西で47.5と前月比-3.5ポイント大幅低下し、3カ月ぶりの悪化。消費税前の駆け込み需要が増える予想がある一方で、増税後の節約志向が強まる見方も見られている。

全国は同-2.8ポイント低下し45.6と4カ月連続の悪化であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

3月の現金給与総額を公表府県別に見ると、滋賀県は前年同月比+3.9%(15カ月ぶり)、兵庫県は同+0.5%(20カ月連続)増加した。一方、奈良県は同-9.9%(9カ月連続)、和歌山県は同-5.8%(2カ月連続)、大阪府は同-3.6%(3カ月ぶり)、京都府は同-0.2%(2カ月ぶり)それぞれ減少。結果、関西2府4県は同-2.1%低下し、3カ月ぶりのマイナス。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった3月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比-2.0%低下し、3カ月ぶりのマイナス。

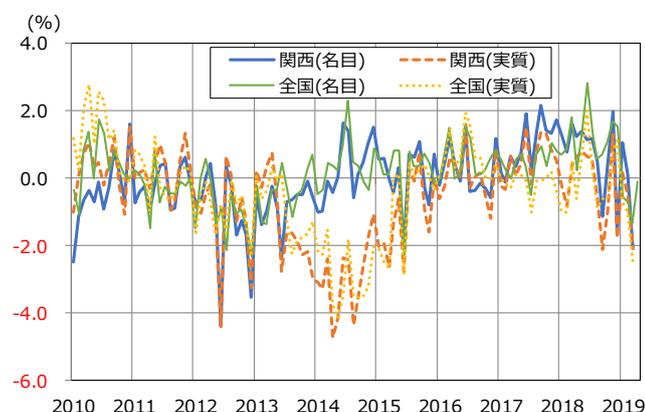
関西2府4県の現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた3月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-2.6%と3カ月ぶりに減少した。また、「関西コア」の実質賃金も同-2.5%低下し、3カ月ぶりに悪化した。

全国4月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比-0.3%と4カ月連続の減少。

内訳を見ると、所定内給与は同-0.1%と4カ月連続で減少。所定外給与は同-1.9%と5カ月連続の減少。特別給与は同-5.3%と4カ月連続の減少。

また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた4月の実質現金給与総額は同-1.4%と4カ月連続で減少し、伸びは低調である

現金給与総額の推移(2010年1月~2019年3月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

(2) 大型小売店販売額

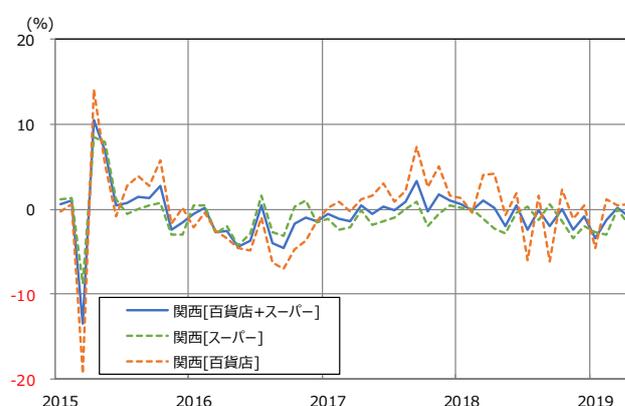
関西4月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,025億円となり、前年同月比-0.8%と2カ月ぶりに前年の水準を下回った。うち、百貨店は同+0.6%と、3カ月連続のプラス。化粧品や宝飾品等の高額品の売り上げが落ちることもなく、またインバウンドの回復がプラスに影響した。なお、関西の百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は、4月は同+10.5%と3カ月連続の二桁増となった。単価も同+9.1%と3カ月連続の増加。ちなみに5月も好調が続いている。

一方、スーパーの販売額は前年同月比-1.8%と、2カ月ぶりのマイナス。月前半の低温の影響を受けて、食料品、衣料品、住居関連品ともに季節品が不調となった。

全国4月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆5,351億円、前年同月比-1.4%と2カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-2.2%と10カ月連続のマイナス。スーパーは同-1.0%と2カ月ぶりのマイナス。なお、小売業販売額指数(季節調整済、後方3カ月移動平均)は前月比+0.2%と4カ月ぶ

りのプラス。経済産業省は基調判断を「一進一退の小売販売」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2019年4月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

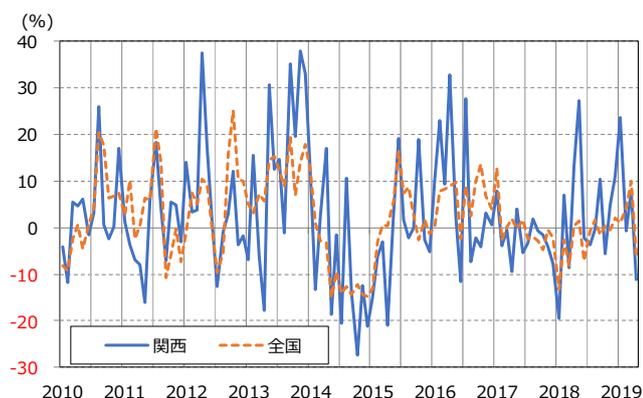
【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西4月の新設住宅着工戸数は11,897戸と前年同月比-11.2%と2カ月ぶりに減少した。貸家の大幅減少が影響した。

利用関係別に見ると、持家は増加したものの、貸家と分譲は減少した。持家は3,291戸で、前年同月比+18.3%と9カ月連続で増加。特に、2019年以降、持家が加速する傾向にあり、増税前の駆け込み需要が一部見られている。一方、貸家は4,216戸で同-24.1%と3カ月連続の減少。分譲は4,366戸で同-12.0%と2カ月ぶりに減少した。うち、マンションは2,582戸となり、同-17.5%と先月(+45.7%)から大幅減少した。大阪府での大幅減少したことが響いた。

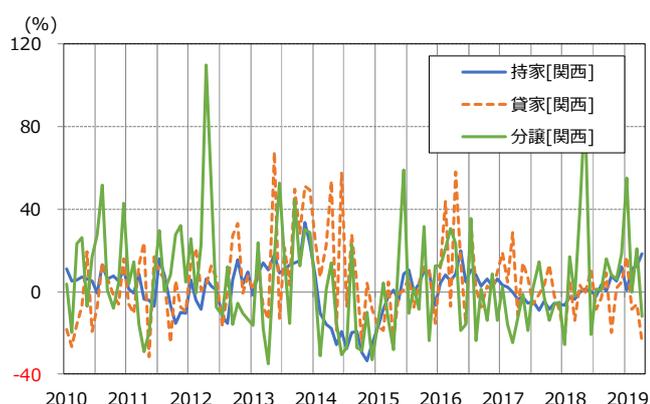
新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

全国4月の新設住宅着工戸数は79,389戸となり、前年同月比-5.7%と5カ月ぶりの減少。利用関係別に見ると、持家は25,436戸(同+9.2%)となり7カ月連続の増加。土地価格が高水準にあるため、所有している土地を担保とした資金調達しやすく、一定の建て替え需要があると考えられる。一方、金融機関はアパート建設向け融資を厳しくしているほか、賃貸用住宅を手掛ける民間企業の不祥事の影響もあり、貸家は29,511戸(同-16.7%)と8カ月連続の減少となった。分譲は23,411戸(同-6.0%)と9カ月ぶりの減少。うち、分譲マンションが10,480戸(同-15.1%)と前月(同+69.5%)から大幅減少となったことが響いた。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2019年4月)



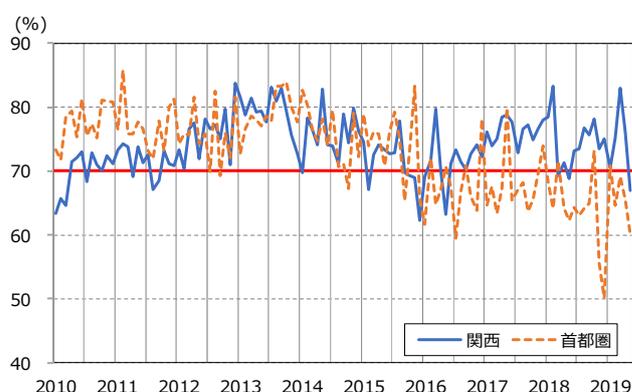
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

(2) マンション市場動向

関西5月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は67.0%(季節調整値: APIR 推計)となり、前月から-9.1%ポイント低下した。2カ月連続のマイナスで、好不調の目安となる70%を12カ月ぶりに下回った。契約率の地域別で見ると、滋賀県(77.1%)、兵庫県下(76.2%)、大阪市部(73.2%)が高い水準を記録した一方、神戸市部(42.3%)、大阪府下(58.4%)などは比較的低い水準となった。

同月の首都圏のマンション契約率は60.1%(季節調整値: APIR 推計)と前月比-5.4%ポイントと2カ月連続低下となり、4カ月連続で70%を下回った。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2019年5月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

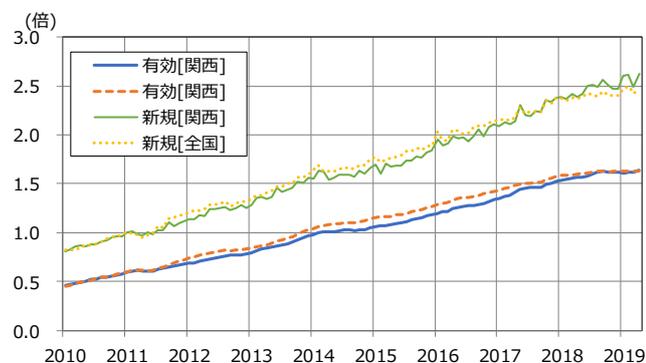
(1) 求人倍率の動向

関西4月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.64倍で前月比+0.02ポイント小幅上昇し、2月以降改善ないし横ばいが続いている。結果、8年10カ月ぶりに全国の水準を上回り、高い水準維持している。内訳をみると、有効求人数が同-0.2%、有効求職者数は同-0.9%、いずれも4カ月連続で減少していることに注意。

府県別に見ると、4月は和歌山県が1.45倍と同+0.04ポイント(3カ月連続)、滋賀県が1.38倍で同+0.02ポイント(3カ月ぶり)、京都府が1.63倍で同+0.02ポイント(3カ月連続)、大阪府が1.81倍で同+0.02ポイント(2カ月ぶり)、奈良県が1.54倍で同+0.01ポイント(3カ月連続)と、それぞれ

れ上昇した。一方、兵庫県が1.44倍で同-0.02ポイント(3カ月ぶり)低下した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2019年1月~4月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
3月	1.63	1.62	1.36	1.61	1.79	1.46	1.53	1.41
4月	1.63	1.64	1.38	1.63	1.81	1.44	1.54	1.45
前月差	0.00	0.02	0.02	0.02	0.02	▲0.02	0.01	0.04

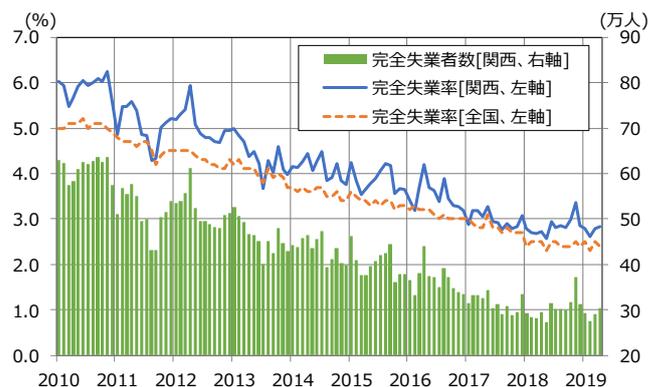
また、関西4月の新規求人倍率は2.62倍で前月比+0.13ポイント大幅上昇し、2カ月ぶりの改善。新規求人数は同+5.2%と2カ月ぶりに増加し、一方新規求職者数は同-0.2%と2カ月連続で減少した。企業の雇用意欲は依然強い。

全国4月の有効求人倍率(季節調整値)は1.63倍と5カ月連続の前月比横ばい。新規求人倍率は2.48倍で同+0.06ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。

(2) 完全失業率の推移

関西4月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.8%と前月比横ばい。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は30.5万人で前月比+1.3万人と2カ月連続で増加した。労働力人口(季節調整値:APIR推計)は、前月差-11.7万人と5カ月連続の減少。また、就業者数(季節調整値:APIR推計)も同-13.4万人と2カ月連続で減少している。雇用情勢に引き続き一服感がみられる。

完全失業率の推移(2010年1月~2019年4月)



(出所)総務省「労働力調査」

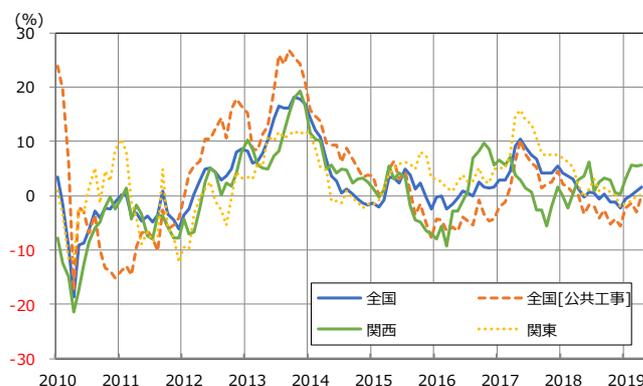
全国4月の完全失業率(季節調整値)は2.4%と、前月比-0.1%ポイント低下し2カ月ぶりの改善。完全失業者数(季節調整値)は168万人で前月比-6万人と2カ月ぶりの減少。理由別では、「非自発的な離職」は同+2万人増加、「自発的な離職(自己都合)」が同-8万人減少、「新たに求職」は同-1万人減少した。

【公共投資・建設工事】

(1) 建設工事

関西4月の建設工事出来高は5,118億円となり、前年同月比+5.6%と14カ月連続で増加を維持していた。増加しつつあるインバウンド需要は宿泊業の建設投資の増加に寄与していると考えられる。関東は1兆5,008億円で同+0.2%と増加し、2カ月連続のプラスとなった。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2019年4月)



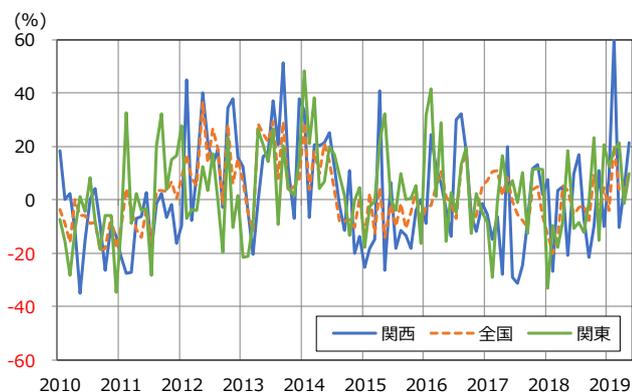
(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。(出所)国土交通省「建設総合統計」

全国4月の建設工事出来高は4兆236億円と、前年同月比+1.6%と3カ月連続で増加した。うち、民間工事は2兆5,670億円で同+2.5%と49カ月連続で増加、公共工事は1兆4,567億円で同+0.1%と12カ月ぶりの増加に転じた。

(2) 公共工事請負金額

関西5月の公共工事請負金額は1,415億円で前年同月比+21.6%と2カ月連続の増加。季節調整値(APIR推計)でも、前月比+17.8%と、2カ月連続の増加となった。2018年度の補正予算の効果が出ているようである。工事場所別にみると、京都府以外、すべての地域が増加した。具体的には、増加したのは奈良県(前年同月比+82.3%)、滋賀県(同+76.4%)、兵庫県(同+31.7%)、和歌山県(同+26.8%)、大阪府(同+12.3%)であった。減少したのは京都府(同-6.8%)のみであった。

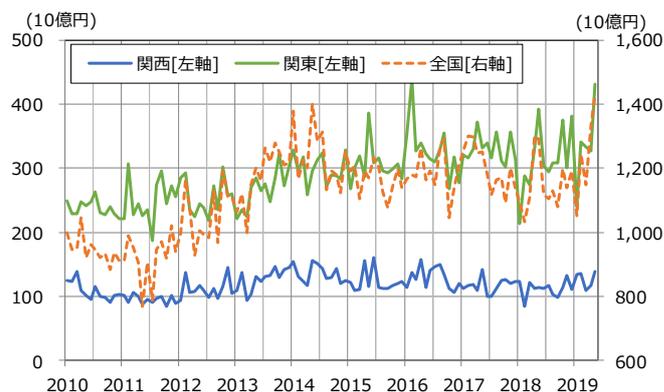
公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2019年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

関東は3,371億円で前年同月比+9.9%と2カ月ぶりのプラス。全国は1兆4,280億円で同+10.5%と4カ月連続のプラスとなった。季節調整値(APIR推計)で見ると、関東は前月比+31.8%と3カ月ぶり、全国は同+7.2%と、2カ月連続の増加となった。

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2019年5月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

5月の関空への外国人入国者数は75万4,630人となり、伸びは前年同月比+8.7%と8カ月連続のプラスで、伸びは前月(同+3.8%)から幾分か加速したが、一桁台の伸びが続いている。また、外国人出国者数は72万7,290人と同+5.8%で7カ月連続の増加。結果、外国人出入国者数は148万1,920人で同+7.3%と8カ月連続の増加となった。

日本人出国者数は28万3,390人で、前年同月比+6.4%と8カ月連続で増加した。なお、4月は同+36.3%と大型連休の影響で大幅に伸びた。5月は幾分その反動と思われる。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2019年5月)



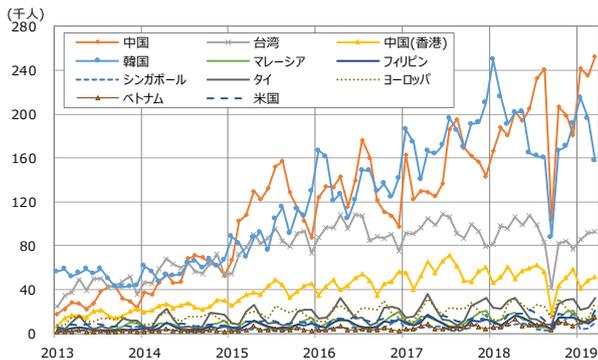
(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

3月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、中国(香港除く)からの入国者が25万3,035人(前年同月比+40.0%)

と最多であった。次いで、韓国が15万7,522人(同-17.5%)、台湾が9万2,890人(同-3.2%)、香港が5万1,599人(同-15.5%)であった。中国は6カ月連続の前年比増加だが、台湾は2カ月連続の同減少、韓国・香港は10カ月連続の同減少となり、低調な伸びが続いている。

地域別訪日外客数(2019年3月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国は、タイが3万2,622人(前年同月比+9.0%)、マレーシアが1万5,889人(同-6.5%)、ベトナムが1万4,696人(同+70.2%)、フィリピンが1万3,115人(同+12.3%)、シンガポールが9,532人(同+26.1%)であった。フィリピンやベトナムの伸びは堅調である。アジア以外の他地域を見ると、欧州全体では2万8,794人(同+7.9%)、米国が2万1,587人(同+25.1%)であった。米国は好調で6カ月連続の二桁の伸びが続いている。

【中国景気モニター】

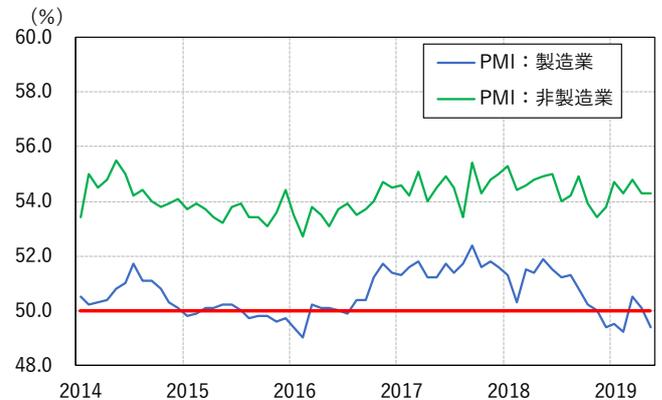
(1) センチメント

5月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.4と前月比-0.7%ポイント下落し、2カ月連続の悪化。また、3カ月ぶりに50を下回った。非製造業PMIは54.3となり、前月から横ばい。

製造業PMIのうち、生産指数は51.7と前月から-0.4%ポイントと2カ月連続で下落した。輸出新規受注指数は46.5と前月比-2.7%ポイント下落し、3カ月ぶりのマイナス。また、12カ月連続で50を下回っている。雇用指数は47.0と同-0.2%

ポイント低下し(2カ月連続の悪化)、26カ月連続で50を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

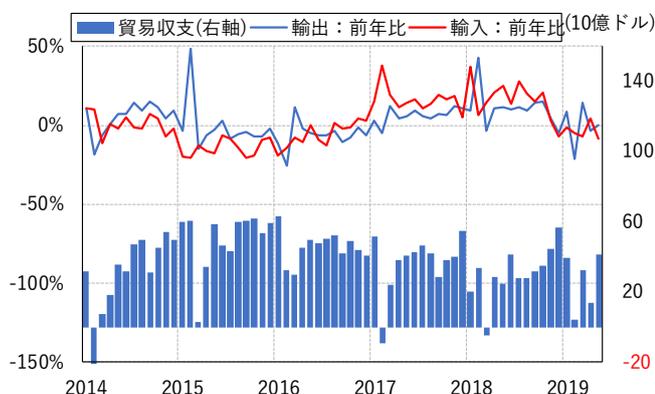
(2) 貿易動向

5月の貿易収支は416.6億ドルで14カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,138.5億ドル、前年同月比+0.5%と2カ月ぶりの増加(4月、同-3.3%)。輸入額は1,721.9億ドル、同-8.4%と2カ月ぶりの減少であった(4月、同+4.7%)。

対日貿易収支は-12.5億ドルとなり、28カ月連続の赤字となった。対日輸出額は119.3億ドルとなり、前年同月比+0.5%と2カ月ぶりの増加。対日輸入額は131.8億ドルとなり、同-15.9%で2カ月ぶりの減少。なお、円ベースでみる

と、対日輸出額は同+0.6%と2カ月ぶりの増加。一方、対日輸入額は同-15.8%と2カ月ぶりの減少である。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 前年同月比, 2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

[最近の対米貿易]

5月の対米貿易収支は+268.9億ドルの黒字(前月:+210.2億ドル)となり、前年同月比+9.4%拡大した。2カ月ぶりのプラス。同月の対米輸出額は376.8億ドルと同-4.2%で、2カ月連続の減少。また、対米輸入額は107.9億ドルと同-26.8%減少し、9カ月連続のマイナス。なお、貿易総額は6カ月連続で同減少していることに注意。

米中貿易摩擦の長期化がはっきりしてきた。中国商務省は14日、米国から輸入する合金鋼シームレス(継目無)鋼管に対する反ダンピング関税を延長し、税率を最大+147.8%まで

引き上げる方針を表明した。また、米通商代表部は15日、3,250億米ドル分中国商品に対して制裁関税の発動を検討していることを表明した。両国首脳がG20大阪サミットで会談の予定だが、解決策は期待されない。

対米輸出入の動向(2014年1月~2019年5月)

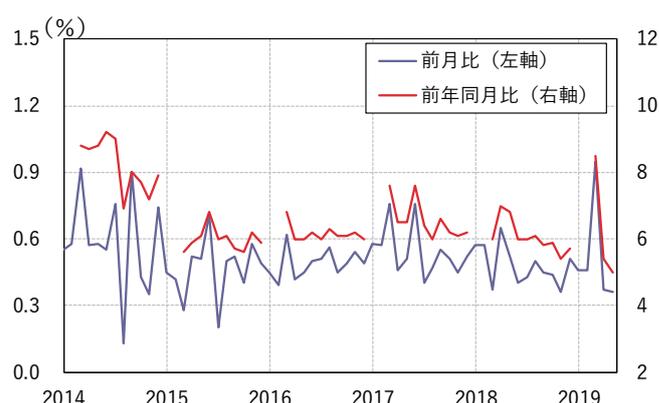


(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

(3) 工業生産

5月の工業生産は前月比+0.36%となり、伸びは前月(4月)から-0.01%ポイント減速した。また、前年同月比+5.0%と前月(4月)から-0.4%ポイント減速した。いずれも2カ月連続の減速。

工業生産指数(2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国国家統計局; CEIC データベース

産業別に見ると、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(前年同月比+11.7%)、パソコン・通信設備製造業(同+10.6%)、非金属鉱物製品製造業(同+9.9%)などが高い伸びを示す一方、化学

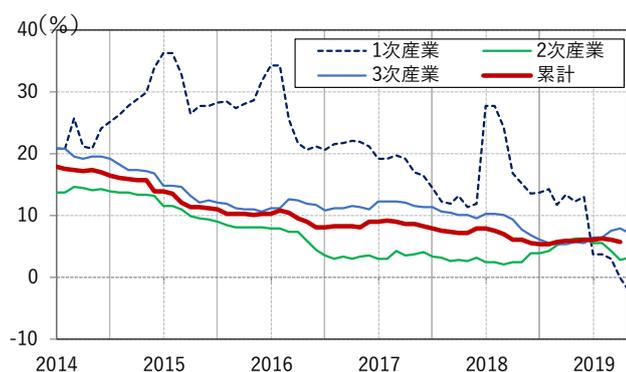
原料・化学製品製造業(同+3.5%)、通用設備製造業(同+2.5%)、繊維工業(同+0.7%)などは比較的低調な伸びにとどまった。なお、自動車製造業は同-4.7%と2カ月連続の減産であった。

(4) 固定資産投資

1-5月期の(累積)の固定資産投資(名目)は前年同期比+5.6%であり、伸びは1-4月期より-0.5%ポイント低下し、2カ月連続の減速。

産業別に見れば、第1次産業は前年同期比-2.3%減少した。伸びは前月(4月)から-2.2%ポイント下落し、3カ月連続の減速。第2次産業は同+3.2%と前月から+0.4%ポイント増加し、6カ月ぶりの加速。第3次産業は同+7.1%で、伸びは前月から-0.8%ポイント低下し、5カ月ぶりの減速。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~2019年5月)

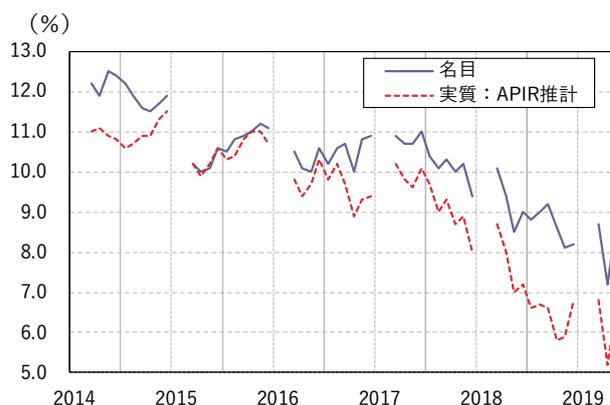


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

(5) 消費

5月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+8.6%となり、前月から+1.4%ポイント上昇している。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR推計)をみると、伸びは同+6.5%と前月から+1.3%ポイント上昇した。

社会消費品小売総額(2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

(6) 物価水準

5月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.7%で、前月から+0.2%ポイント上昇し、3カ月連続の加速。うち、食品価格は同+7.7%上昇し、CPIへの寄与度は+1.48%ポイントであった。なお、豚肉価格は同+18.2%上昇し、前月から+3.8%ポイント加速した。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+0.6%となり、前月から-0.3%ポイント低下し、4カ月ぶりの減速。うち、生産財(生産資料)価格は同+0.6%と、前月から-0.3%ポイント低下した。消費財(生活資料)価格は同+0.9%と、前月比横ばい。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~2019年5月)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

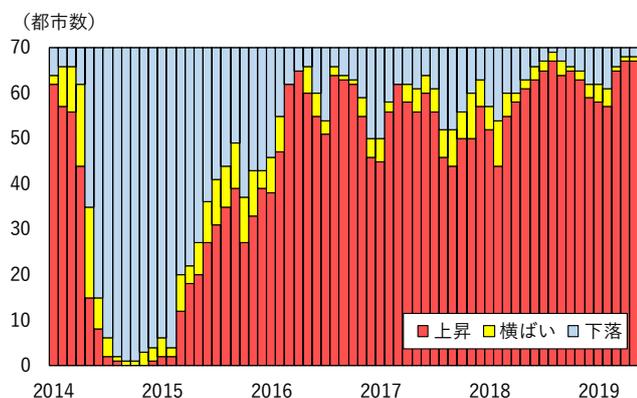
(7) 不動産市場

5月の不動産価格はほとんどの主要都市で前月に引き続き上昇している。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要

70 都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は 67 で前月と横ばい。一方、下落した都市数は 2 で前月と横ばい。また、横ばいの都市数は 1 で前月と同じ水準であった。

Contact : 野村亮輔
Tel. 06-6485-7694
E-mail. contact@apir.or.jp

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~2019年5月)

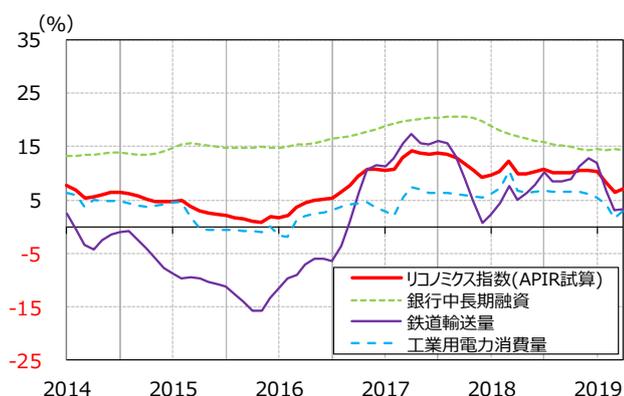


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) リコノミクス指数

4 月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+7.0%と前月から+0.6%ポイント上昇した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.2%となり、前月から-0.2%ポイント低下し、2 カ月ぶりの減速。鉄道輸送量は同+3.3%となり、伸びは前月から+0.4%ポイント上昇し 4 カ月ぶりの増加であった。工業用電力消費量は同+3.0%となり、伸びは前月から+1.4%ポイント増加し、6 カ月ぶりに加速した。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2019年4月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

【主要月次統計】

月次統計	18/5M	18/6M	18/7M	18/8M	18/9M	18/10M	18/11M	18/12M	19/1M	19/2M	19/3M	19/4M	19/5M
景 況 感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	47.5	48.6	46.7	49.6	48.8	52.5	52.8	49.9	45.4	48.0	47.0	47.2	45.1
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	50.8	52.4	50.8	51.2	52.9	52.8	53.4	47.4	50.7	50.4	50.6	51.0	47.5
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	47.1	48.1	46.6	48.7	48.6	49.5	51.0	46.8	45.6	47.5	44.8	45.3	44.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	49.2	50.0	49.0	51.4	51.3	50.6	52.2	47.9	49.4	48.9	48.6	48.4	45.6
消 費 者 心 理 ・ 小 売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.2	43.3	42.9	43.2	42.7	42.6	42.4	42.5	41.8	40.6	40.1	40.0	39.5
[関西]「暮らし向き」(原数値)	41.5	41.5	40.9	41.2	39.6	40.5	40.3	40.6	40.2	38.1	37.2	37.3	37.1
[関西]「収入の増え方」(原数値)	42.1	41.7	41.8	41.8	41.8	40.8	40.9	40.6	40.8	39.8	39.2	39.3	40.0
[関西]「雇用環境」(原数値)	47.1	47.4	47.0	47.9	47.1	46.6	46.4	46.0	44.1	44.1	44.0	44.2	43.2
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	42.1	42.4	41.9	41.7	42.2	42.3	42.0	42.6	41.9	40.5	39.8	39.0	37.5
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.8	43.7	43.5	43.3	43.4	43.0	42.9	42.7	41.9	41.5	40.5	40.4	39.4
[関西]大型小売販売額(10億円)	302.8	306.5	331.0	304.9	287.8	310.5	321.4	407.1	321.5	282.5	317.6	302.5	UN
[関西]大型小売販売額(前年同月比%、全店)	-2.0	0.5	-2.4	-0.2	-2.0	0.1	-2.4	-0.8	-3.4	-1.3	0.2	-0.8	UN
[全国]大型小売販売額(10億円)	1,566.4	1,603.0	1,700.2	1,575.1	1,513.6	1,586.2	1,642.3	2,082.5	1,632.2	1,434.5	1,655.2	1,535.1	UN
[全国]大型小売販売額(前年同月比%、全店)	-1.4	2.1	-1.0	0.6	1.1	-0.2	-1.7	-0.5	-3.0	-1.5	1.0	-1.4	UN
住 宅 ・ 建 設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	14,140	11,737	12,151	11,768	12,545	11,496	12,329	11,360	11,371	11,310	11,626	11,897	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	27.2	-2.2	-3.6	-0.2	10.5	-5.5	4.8	11.1	23.7	-0.7	7.8	-11.2	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	79,539	81,275	82,615	81,860	81,903	83,330	84,213	78,364	67,087	71,966	76,558	79,389	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	1.3	-7.1	-0.7	1.6	-1.5	0.3	-0.6	2.1	1.1	4.2	10.0	-5.7	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	68.8	73.1	73.5	76.8	75.7	78.2	73.6	75.1	70.5	75.2	83.0	76.1	67.0
[関西]マンション契約率(原数値)	69.5	75.6	74.0	80.6	72.8	77.7	74.4	72.1	70.2	75.8	80.6	75.9	67.7
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	62.3	64.3	63.1	64.2	64.9	73.1	55.5	50.2	70.8	64.7	69.2	65.5	60.1
[首都圏]マンション契約率(原数値)	62.2	66.0	67.8	64.5	66.5	67.5	53.9	49.4	67.5	65.6	72.2	64.3	60.0
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	116.4	134.5	140.9	95.4	109.3	116.9	94.7	88.0	71.4	80.0	109.3	220.6	141.5
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	-21.0	9.9	17.1	-7.1	-21.6	-10.0	10.9	-9.8	9.1	60.5	-10.5	4.2	21.6
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,285.7	1,433.9	1,252.0	1,124.1	1,218.6	1,282.3	818.9	834.0	585.3	739.0	1,316.5	2,232.9	1,420.4
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	3.5	-5.6	-2.9	-2.2	-7.6	9.5	-5.2	4.6	-4.1	20.4	3.7	2.5	10.5
[関西]建設工事(総合、10億円)	482.3	513.4	504.7	529.4	554.3	564.2	589.8	610.4	607.9	602.7	589.7	511.8	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	3.7	6.2	0.9	2.5	3.3	3.0	0.5	0.2	3.0	5.7	5.6	5.6	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	3,893.5	4,124.0	4,264.0	4,447.2	4,705.1	4,850.7	4,915.6	4,945.3	4,897.0	4,811.8	4,790.7	4,023.6	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	-0.2	0.7	0.5	-0.5	0.3	-1.1	-1.1	-2.2	-0.7	0.1	0.8	1.6	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,380.9	1,479.7	1,540.2	1,642.2	1,826.6	1,938.5	1,996.5	2,042.5	2,047.5	2,013.0	1,985.8	1,456.7	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-3.3	-1.7	-1.8	-4.1	-2.6	-5.2	-4.2	-5.6	-2.3	-1.4	-3.0	0.1	UN
生 産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.9	103.5	103.2	104.3	103.4	106.5	104.5	103.9	102.5	102.4	99.6	101.0	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.8	-1.3	-0.3	1.1	-0.9	3.0	-1.9	-0.6	-1.3	-0.1	-2.7	1.4	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	4.4	-2.9	0.6	-0.3	-3.4	8.3	1.2	-3.2	-0.2	-3.9	-7.0	-4.0	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	2.9	1.6	-0.7	-2.6	0.1	-4.0	-2.8	-1.7	-2.8	-1.3	-0.2	0.3	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	105.0	103.8	103.1	105.0	102.8	109.2	104.1	103.1	103.0	100.6	99.7	100.2	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	0.1	-1.1	-0.7	1.8	-2.1	6.2	-4.7	-1.0	-0.1	-2.3	-0.9	0.5	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	100.7	99.4	98.5	97.7	98.8	98.8	99.0	100.1	98.6	100.0	101.8	101.9	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	-0.9	-1.3	-0.9	-0.8	1.1	0.0	0.2	1.1	-1.5	1.4	1.8	0.1	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.4	102.5	102.3	103.3	102.9	105.9	104.8	104.7	101.1	102.5	102.2	102.8	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	-0.2	-1.8	-0.2	0.3	-0.4	2.9	-1.0	-0.1	-3.4	1.4	-0.6	0.6	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	3.3	-0.2	1.2	0.6	-2.9	5.7	0.9	-3.1	-0.4	-0.3	-4.0	-1.4	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	2.5	2.4	2.8	2.8	3.5	-0.7	0.6	1.9	1.3	1.4	0.2	1.2	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	101.5	101.8	99.8	103.2	101.1	104.6	103.3	103.3	99.8	101.6	100.9	102.7	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	-1.6	0.3	-2.0	1.8	-2.0	3.5	-1.2	0.0	-3.4	1.8	-1.3	1.8	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	113.5	111.4	111.2	101.4	102.6	101.3	101.4	103.1	101.7	102.2	103.8	103.8	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.6	-1.9	-0.2	-0.2	1.2	-1.3	0.1	1.7	-1.4	0.5	1.4	0.0	UN
労 働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	1.4	1.1	1.2	0.5	-1.1	0.4	2.0	-1.7	1.0	0.1	-2.1	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	2.1	1.1	2.5	0.8	-0.6	0.9	2.6	-1.3	1.3	0.7	-2.0	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	1.4	2.8	1.4	0.6	0.7	1.1	1.7	1.5	-0.6	-0.7	-1.9	-1.3	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.6	3.0	2.9	2.8	2.9	3.0	3.4	2.5	2.8	2.6	2.8	2.8	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.5	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	2.4	2.7	2.7	2.8	2.7	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.2	2.4	2.5	2.4	2.3	2.4	2.5	1.6	2.5	2.3	2.5	2.4	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.37	2.53	2.54	2.46	2.61	2.53	2.45	2.47	2.60	2.61	2.49	2.62	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.34	2.47	2.42	2.34	2.50	2.40	2.40	2.40	2.48	2.50	2.42	2.48	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.56	1.58	1.60	1.62	1.64	1.63	1.62	1.62	1.61	1.62	1.62	1.64	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.60	1.62	1.63	1.63	1.64	1.62	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	1.63	UN
国 際 貿 易													
[関西]純輸出(10億円)	82.3	268.1	85.6	179.2	179.8	115.6	19.9	179.5	-184.0	213.7	273.5	104.6	-8.7
[関西]輸出(10億円)	1,402.8	1,520.9	1,434.1	1,519.3	1,112.4	1,517.8	1,505.0	1,474.8	1,179.8	1,319.8	1,500.1	1,354.4	1,250.9
[関西]輸出(前年同月比%)	13.2	9.9	7.9	9.9	-25.0	6.5	-1.0	-7.2	-9.5	-2.0	-6.3	-5.7	-10.4
[関西]輸入(10億円)	1,320.5	1,252.8	1,348.6	1,340.1	931.8	1,402.1	1,485.1	1,295.3	1,363.8	1,106.1	1,226.6	1,249.8	1,259.6
[関西]輸入(前年同月比%)	15.3	3.4	12.9	9.8	-24.4	10.8	9.4	-2.9	0.4	-9.8	-1.4	3.3	-5.2

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅船・鉄道車両除く。

Release Calendar for May/June

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
27-May	28-May 近畿地域鉱工業生産 動向 (3月:確報)	29-May	30-May 全国貿易統計 (4月:確速)	31-May 一般職業紹介状況 (4月) 労働力調査 (4月) 消費動向調査 (5月) 商業動態統計 (4月:速報値) 全国鉱工業生産指数 (4月:速報値) 建築着工統計調査 (4月) 中国製造業 PMI (5月)
03-Jun	04-Jun	05-Jun	06-Jun	07-Jun 毎月勤労統計調査 (4月:速報値) 百貨店・スーパー販売状 況(4月:速報値)
10-Jun 近畿貿易統計 (4月:確報) 景気ウォッチャー 調査 (5月) 中国輸出入 (5月:速報値)	11-Jun 近畿地域鉱工業生産 動向 (4月:速報)	12-Jun 中国 CPI&PPI (5月)	13-Jun 商業動態統計 (4月:確報値)	14-Jun 公共工事前払金保証 統計(5月) 全国鉱工業生産指数 (4月:確報値) 中国工業生産 (5月) 中国消費小売総額 (5月) 中国固定資産投資 (5月)
17-Jun マンション市場動向 (5月)	18-Jun 建設総合統計 (4月) 中国不動産市場 (5月)	19-Jun 全国貿易統計 (5月:速報) 近畿圏貿易概況 (5月:速報)	20-Jun 出入(帰)国者数(5月)*	21-Jun 毎月勤労統計調査 (4月:確報値)
24-Jun	25-Jun 出入国管理統計 (4月)* 近畿地域鉱工業生産 動向 (4月:確報)	26-Jun	27-Jun 全国貿易統計 (5月:確・速) 近畿圏貿易概況 (5月:確・速) 商業動態統計 (5月:速報値)	28-Jun 全国鉱工業生産指数 (5月:速報値) 建築着工統計調査 (5月) 労働力調査 (5月) 一般職業紹介状況 (5月)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。